

令和3年度 指定管理者の管理運営に関する評価シート

1. 指定管理者（施設）の基本情報

施設名	箕面市立光明の郷ケアセンター（障害者地域活動支援センター）
指定管理者	社会福祉法人大阪府社会福祉事業団
指定期間	平成31年4月1日から令和6年3月31日まで
施設概要	障害者地域活動支援センター 定員10名 (自主事業: 生活介護 定員20名、 相談支援)
市支出額	13,000,000円

2. 事業の実施状況

サービスの利用状況	<p>令和3年度 延べ利用者数 805人（地活） 3261人（生活介護） 791人（相談支援） 1日平均利用者数 3.7人（地活） 13.7人（生活介護） 3.3人（相談支援） 事故件数 重大事故 0件 事故件数 0件</p>
いきいきとした安心な暮らしの実現	工賃の安定化に向けて名刺の販売拡大を図り、名刺は事業団のみならず多方面からの注文を受けることができるようになりました。しかし、コロナウィルス感染症の影響で、本の修理の仕事などがなくなり令和2年度比工賃向上20%を達成することはできませんでした。「フレンドカラー」の主力商品である紙漉きのみならず、第2の商品開発に着手し、手絞りの小物の販売に向けて取り組んでいます。
生産性の高いケアを目指すための取り組み	令和3年度については年3回のコンサルテーションを実施しました。コロナ感染症により、来所して頂くことはできませんでしたが、毎日の取り組みの中での悩みや疑問などをあらかじめ報告しwebでのやりとりとなりました。困難な事例になればなるほど行き詰まりがちな支援を、外部の方の意見に耳を傾けることで新たな方向性につなげることができました。
創作活動作品の外部展示の実施	障がい事業は、センターの3階にあることから、まだ地域の皆様に知られていないこともあります。白島荘の展示はもちろんのこと、令和3年度から、センター前の掲示板の作品展示に力を入れました。春夏秋冬コロナ禍においても頑張って行きましょうという、ご利用者のメッセージが届くことを願いながら創作活動に取り組みました。
緊急時の受け入れ	諸事情により、行き場が決まらないご利用者の受け入れを地域活動支援センターにて受け入れました。地域活動支援センターだからこそその特性を活かした事例となりました。

3. 利用者の満足度

(1) 利用者アンケートの状況

アンケートの結果概要	今回のアンケートの中では、外出したいというご意見が数件ありました。今年度は、当事業所でもコロナ感染者がでたことから、外出等はほとんどできていませんでした。何とかして室内で出来ることをと、いろいろな運動器具を導入し、エクササイズに取り組んだり、レクリエーションを週1回開催したことなどを評価して頂きました。上映会などもスクリーンを設置し大きな映像を見て頂くことで評価をいただきました。
------------	---

(2) 利用者等の意見交換会の状況

意見交換会の結果概要	
------------	--

(3) 利用者からの意見を反映させる取り組み

取り組みの実施状況	週1回開催のイベントを継続しつつ、器具を使うエクササイズは、ご利用者やご家族からも好評で今後も器具の種類を増やしながら取り組んで行きたいと考えています。コロナ禍においても安定的な工賃を得るために更なる商品開発に取り組んでいます。いつ来ても楽しい「フレンドカラー」を目指します。
-----------	--

4. 収支状況（事業活動明細書より、地活、生活介護、相談支援等合計）

【収入】	57,700,238円
【支出】	55,056,597円
【収支差額】	2,643,641円

5. 特別提案の状況

6. 指定管理者の自己評価

地域活動支援センターでは、ご利用者の事情により短期間の利用であったり、急なご利用であったりという事例にも柔軟に取り組みました。他の通所事業所を利用されている方がほとんどで、センターに通所し悩みや不安を相談される場面があります。コロナ禍においては、職場が長期休業になるなど生活の不安も大きく、ちぎり絵等細やかな作品を製作しながらスタッフと話することで「気持ちを落ち着けておられる光景も見受けられました。「フレンドカラー」においては、Instagramに取り組むなどの情報発進に努め、遠方に引っ越しされたご利用者や、ご家族にも喜ばれています。また、日々の取り組みや通所時の様子を、ご家族に映像をどうして見て頂くことで、個別計画に反映させることもできました。感染症に常に向き合いながら、安全を第一にしつつ「来て楽しい生活介護」をめざしました。